

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。しかしながら、今日なお世界の動きは、核戦争の危機をはらみ、誠に憂慮にたえない。わが国は唯一の被爆国として、核兵器の恐ろしさと、被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、再び広島・長崎の惨禍を繰り返してはならない。我孫子市は市民の生命と安全を守るため、いかなる国のいかなる核兵器に対しても、その廃絶を求め、ここに平和都市を宣言する。

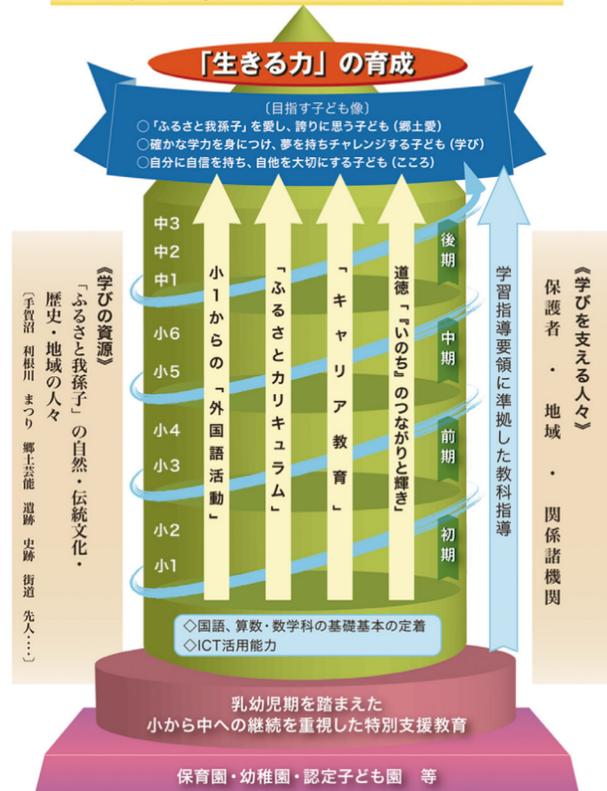
「確かな学力」向上と「豊かな心」「健やかな体」の育成のために！

我孫子市の目指す 小中一貫教育



▲中学校教諭による、小学校での英語教育

小中一貫教育の目指す子ども像



小中一貫教育では、子どもたちを、「郷土愛」「学び」「こころ」の三つの視点で育てます。

目指す子ども像の達成に向け、「カリキュラムでつなぐ」を合言葉に、①「外国語活動」②「ふるさとカリキュラム」③「キャリア教育」④「道徳」の四つの教育活動を、9年間を貫く柱として位置付けます。

また、基本的な生活・学習習慣を身につけるため、中学校区ごとに「生活スキル」と「学びスキル」を設け、小・中学校が一貫した指導を行います。

我孫子らしい小中一貫教育に向けて



我孫子市長 星野 順一郎

小中一貫教育は、学校の統廃合のためではなく、子どもたちのこころの育成と学力向上を目指して、全市での展開を計画しています。

モデル地区の布佐中学校区では、これまでも「ふさカリキュラム(地域学

習)や「防犯・健全育成地域会議」などに代表される小・中学校と地域が深く連携した教育活動を積極的に展開してきました。この布佐中学校区の「よさ」や「魅力」を生かしながら、小中一貫教育を実践していきます。

今後、布佐中学校区での取り組みを踏まえ、ほかの中学校区へその成果を広げていきます。

小中一貫教育の実施

市の「よさ」や各中学校区の特徴を生かし、小学校と中学校、そして地域が一体となって子ども達を育てることが、我孫子市の学校教育の充実や地域の活性化に



▲中学校での「ふるさとカリキュラム」授業

市では、すべての子どもたちが、生きる力である「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を身につけ、一人ひとりが充実した学校生活を送ることができるよう小中一貫教育を推進していきます。

昨年度は、児童・生徒の現状と課題を把握するため、市内の小学5・6年生、中学1年生と教職員全員を対象に小・中学校間の円滑な接続に関するアンケートを実施しました。その結果、生きる力の育成や課題を解決するには、9年間の義務教育を通じた系統的・継続的な学習指導や、小学校と中学校、また小学校同士が一緒に活動する機会を持つことが大切であるとわかりました。

4月15日、上橋さんが市役所を訪れ、「まるで夢を見ていたようです。私の物語が日本だけでなく、海外の読者の胸に響いたことにはありません。これからも、たいまつを渡すように次の世代に私の作品を伝えられたいらうれしく思います。」と星野市長に受賞の感想と今後の抱負を述べられました。また、川村学園女子大学に勤務するために我孫子に住み始めてから、作品がど

国際アンデルセン賞

国際児童図書評議会が、世界の児童文学者、画家を対象に2年に1度表彰する国際賞で作家賞と画家賞がある。個々の作品に対する評価ではなく、児童文学への永続的な貢献を観点に、作家の全業績に対して贈られる。



国際児童図書評議会代表者から、上橋さんへ国際アンデルセン賞の授賞状が贈られる様子。

上橋菜穂子さん(市内在住)が「国際アンデルセン賞」を受賞！

3月24日、作家で文化人類学者の上橋菜穂子さんが、『児童文学のノーベル賞』といわれている国際アンデルセン賞の作家賞に選ばれました。日本人で作家賞を受賞するのは、1994年のみちみちおさん以来、2人目という快挙です。

上橋さんの『獣の奏者』や、『精霊の守り人』をはじめとする『守り人シリーズ』は9か国語で翻訳され、民族や国家の衝突など普遍性のあるテーマや、精緻な描写が国際的にも高く評価されています。

副市長に青木章氏再任



副市長に青木章氏再任

3月の市議会定例会で、現副市長の青木章氏を再任することが同意され、4月1日付けで就任しました。青木氏は昭和47年に市役所に入庁し、これまで環境生活部次長、企画調整室長、企画財政部長など市の要職を歴任。平成22年4月から副市長を務めています。昭和26年12月12日生まれ。62歳。